



イラストレーター

まちだ りく
町田 李句さん

Profile

1992年藤岡市生まれ。2018年イラストレーターとして独立。有名企業の広告イラストやパンフレット・雑誌の挿絵、CM絵コンテ作製など幅広い仕事を手掛ける。

淡

く柔らかな色彩と繊細な線、人物の感情がにじむ表情が印象的なイラスト。イラストレーターの町田さんは、藤岡で生まれ育ちました。

幼い頃は豆腐屋を営む祖父父母の家に預けられていた町田さん。おもちゃも絵本もなく、遊び相手もない環境で、気付けば絵を描くことに夢中になっていました。「保育園に入ってもずっと絵を描いていて、外で遊びなさいと何度も怒られました」と笑いながら話します。中学校では吹奏楽部に入部しますが、美術部の友人の勧めで文集や修学旅行のしおりの表紙イラストを手掛けます。「これがすごく楽しかったんです。自分の感情を絵にするよりも、求められたものを描くことに喜びを感じました」と当時を振り返ります。「絵は自分らしくいられる大事なコンテンツでした。でも、自信があったわけではなくて」と話す町田さん。美術科のない学校に進学し、事務職に就きます。しかし、数年後に持病が悪化。自宅でできる仕事を、と考えた時に、学生時代の経験を思い出します。「人生一度きりだ

イラストに込めた思い

からやりたいことをやってみようと思ったんです」と、イラストレーターとしての道を歩み始めました。

イラストの自然さを大切にしていく町田さん。限られた納期の中でできる限りの取材を行い描いています。一方で無意識の思い込みに対しては配慮しているといいます。「外見や性別の『こうあるべき』というイメージに加担しないよう意識しています。広告の影響は大きいと思うので、誰かが悲しい思いや苦しい思いをしない表現を目指しています。みんなが肩の力を抜けるような、生きやすい世の中になってほしいです」と話します。プライベートでは一児の親でもある町田さん。今後チャレンジしてみたいことを尋ねると、「子ども向けの仕事をやってみたいのです。責任もすごくあるけど、子どもにいい影響を与えられるものに携わりたい」と語ってくれました。

あまり偉そうなことは言えないけど、とはにかみながら話をしてくれた町田さん。その描き出すイラストのように、温かな世の中になることを願いながら、今日もペンを走らせます。